



院長
伊藤 真理子
プロフィール

真理子先生の

女性の ぽかた

胎盤

●(いとう・まりこ) 1986年山形大学医学部卒業。山大病院、篠田病院を経て2005年6月に真理子レディースクリニックを開業。日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医。

日増しに成長する子宮の中の赤ちゃんは、どのようにしてお母さんから栄養をもらうのでしょうか

大切な胎盤の働き

赤ちゃんは自分のお臍へそから伸びる臍帯さいたいを通して胎盤に、そしてお母さんに繋がっています。子宮の内側に付着している胎盤を通じて栄養と酸素がお母さんから赤ちゃんに運ばれ、赤ちゃんからは老廃物や二酸化炭素がお母さんに運ばれます。

大きさには個人差

このように胎内の赤ちゃんは臍帯とお母さんを

通してしか体外とのやり取りができません。生まれるころには臍帯は80センチ前後、胎盤は直径20センチで厚みは4〜5センチにもなりますが、かなり個人差もあります。臍帯が切り離されて無事に産まれ、自分で呼吸し、哺乳で栄養を取り入れ、排尿・排便をして老廃物を自分の体から除く様になります。

常位胎盤早期剥離とは？

その胎盤に関係した病気が2つあります。ひとつが「常位胎盤早期剥離」です。出産時、先ず赤ちゃんが子宮外に出てその後胎盤が排出され

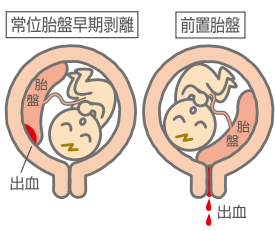
るのが順当なのですが、先に胎盤が剥がれかかり、胎盤を通してしか酸素をもらえない子宮内の赤ちゃんがとても苦しい状態になることがあります。これが胎盤早期剥離です。

サインを確認したら一刻も早く子宮から赤ちゃんを出してあげなくてはなりません。緊急の帝王切開が必要になります。妊娠中毒症や喫煙者に多いとされます。

前置胎盤とは？

もうひとつが「前置胎盤」で、秋篠宮紀子様がお悠仁様出産の際に話題になったのでご記憶の方も

多いかもしれません。子宮に付着する場所ではできるだけ子宮の奥の方が望ましいのですが、子宮の出口をふさぐ様に付着した場合経膣分娩ができず、帝王切開での出産になります。



妊娠中にしばしば大量の出血を認め、早めに安静入院が必要になります。胎盤の縁が子宮口に接する辺縁前置胎盤なら経膣分娩が可能なこともあります。